

報道関係者と民博との懇談会

2025年5月15日(木)15:30～17:00

話題一覧

懇談会

1. 挨拶

— 関 雄二 (館長) —

2. ニュースリリース

●みんなの最新情報と今後3カ月の行事をご案内いたします。

— 山中 由里子 (議長) —

3. みんなの映画会

[詳しくはこちら](#)

『フォトコピー』

大手出版社の植字工を退職したマフムードはコピー屋を営み静かに暮らしていました。大学生に代筆を依頼されたレポートより、恐竜が自然環境の変化に適応できずに絶滅したことを知り衝撃を受けます。恐竜の絶滅についてもっと知りたいという思いから、新しいテクノロジーと向き合う決意をし、新しい生き方を模索します。



©Red Star Films

日時 2025年6月8日(日)13時30分～16時00分 (13時30分開場)
会場 みんなのインテリジェントホール (講堂) (定員 350名)
参加費 要展示観覧券 (一般 580円) ※イベント参加費は不要
解説 相島葉月 (本館 准教授)
※事前申込制 (本人を含む2名まで)、先着順
※一般受付/6月4日(水)まで

— 相島 葉月 (グローバル現象研究部 准教授) —

4. 本館展示

[詳しくはこちら](#)

みんなの音声ガイドの公開について

この度、新たに自動運転モビリティに「音声ガイド機能」が付きまして。

2024年10月に運用を開始したWHILL自動運転モビリティに搭乗しながら、展示の見どころなどを音声で楽しむことができます。また、来館者個人のスマートフォンや貸し出し用スマートフォンを用いて体験することも可能です。



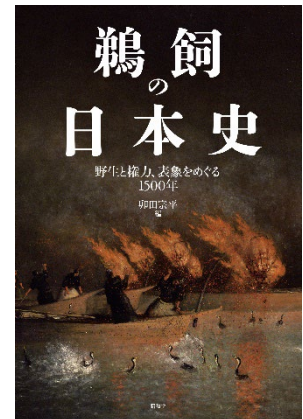
— 工藤 さくら (人文知コミュニケーター・特任助教) —

— 日高 真吾 (学術資源研究開発センター 教授) —

『鵜飼の日本史—野生と権力、表象をめぐる 1500 年』

(卯田宗平 編／昭和堂)

日本列島において 1500 年以上も続く鵜飼漁。その全体像を時代や分野を越えて初めて明らかにしました。さらに、なぜ野生のウミウにこだわるのか、なぜ日本独自の漁法が生みだされたのかといった問いにも答えを出しました。



— 卯田 宗平 (グローバル現象研究部 教授) —

『脱観光化の人類学—かわりゆく観光と社会のゆくえ』

(東賢太朗・福井栄二郎・奈良雅史編／ミネルヴァ書房)

現代社会において大衆化した観光は異文化交流を促進する一方、オーバーツーリズムなどの問題も引き起こしてきました。本書は「脱観光化」をキーワードとして観光の光と影を民族誌的事例に基づいて論じます。



— 奈良 雅史 (学術資源研究開発センター 准教授) —

※その他の配布資料 刊行物報告書 (資料5)



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

お問い合わせ

国立民族学博物館 総務課 広報係

電話:06-6878-8560(直通) Fax:06-6875-0401 Mail:koho@minpaku.ac.jp